

第2学年 図画工作科学習指導案

指導者 田口 雅之

1 活動を通して培いたい力

(場所や材料に働きかける力)

- ・身近なものや形・色などをもとに、自分の感覚を生かしながら、体全体を働かせてつくる力

2 題材名 「ようこそ！線のせかいへ」(造形遊び)

－ 2時間扱い－

3 題材について(活動を通して培いたい力と児童の実態から)

本題材における造形活動の主なねらいは、体全体を使って、いろいろな種類の線にかくことである。線といっても、太い線、細い線、長い線、短い線、重なる線、まっすぐな線、くねくねした線、色のついた線・・・とその表現の可能性は多様である。線にかく画材として筆、刷毛、共用絵の具、クレヨンを使いたい。2年生は、今年初めて絵の具セットを使った。多くの子どもが、図工の時間を楽しみにしていて、「次に絵の具を使う時間はいつ？」と聞いてくるほどである。しかし、作品をつくるにあたり、なかなか自分の思いを形にできず、手がとまってしまう児童も少なからずいた。今回の「線にかく」という活動は、誰もが参加できやすいものとする。全員が参加し、助け合う姿を期待したい。また、体全体を使って線にかくことで、自分のからをやぶり、大胆な表現を試せるようにしたい。

表したい思いがわき上がるような場の設定として、教室の床や壁に模造紙を敷き詰め、そこに自由に線をかいていいことにしたい。そうすることで、筆1本でかきだす子も入れれば、手に何本も筆をもって一度に何本もの線にかく子どもでてくるだろう。子どもたちは、立ちながら、座りながら、あるいは走ったり、ジャンプしながら線にかくことで、線の感じがどのように変わっていくか、体験していく。また、自分の線が友だちの線と出会って、表現の仕方が変わっていくこともあるだろう。自由にかける場の中で、どんな表現ができるか、試したり、友だちと伝えあったりしながらいろいろな線をかける子どもたちの姿をめざしたい。

4 題材のねらい

- ・思いのままに線にかく活動を通して、線の様々な表現を感じ取る。

5 題材の評価規準(重観点…◎)

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○進んで線をかき、それらを見たり、付け加えたりする活動の楽しさを味わっている。	◎かいた線から感じたイメージをもとに、線を付け加えたりつなげたりする。	○線の色を比べたり、線を集めたり、かき足したりするなど、工夫して活動する。	○自分や友達の表現や活動のよさに気づき、かいて遊びながら、イメージを広げている。

6 テーマに迫るための手立て

意欲

題材のテーマを「線」とすることで、誰でも気軽に参加できるようにすることで、より親しみを持ち、興味をもって表したい形のイメージがふくらませられるようにする。

線にはいろいろな太さ、描き方、色があり、どれもがおもしろいということを認められるようにすることで、様々な描き方を試してみたいと思えるようにする。

気づき

いろいろな太さの筆やクレヨンでかくことで、一口に「線」と言っても、様々な色や形の線をかくことができる。そこから表現のおもしろさ、可能性に気づき、やってみたい思いをふくらませることができる。と考える。

どんなかき方で線をかいてもいいことにする。安全に気を付けて、跳んだり、走ったりしてかいてもよいことを知らせる。かき方次第で、様々な表情の線がかけることに気づけるようにする。

かかわり

床だけでなく、壁にもロール紙を敷き詰め、座るだけでなく、立ちながら、走りながら動きをつけて線を引けるようにする。また、お互いの活動を見合えるようにする。友達と関わり合いながら取り組むことで、さらにかいたり、付け加えたりしたい線のイメージがふくらんだり広がったりするようにする。

思考

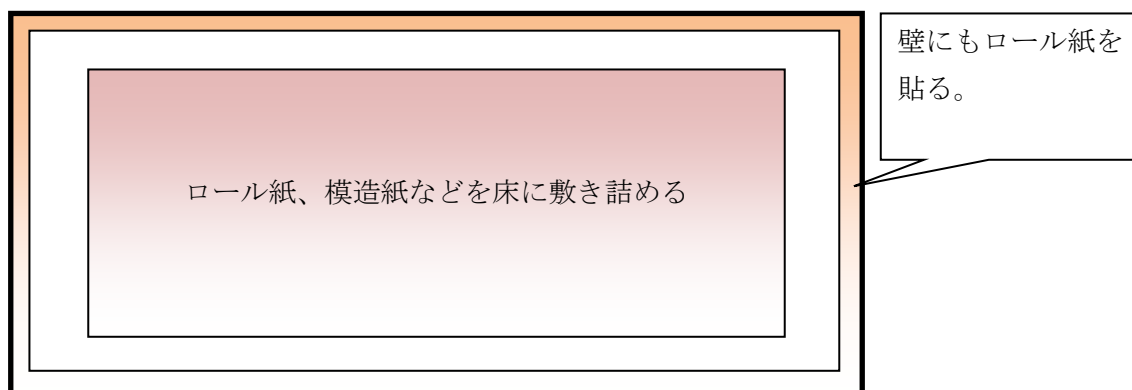
線をかいている瞬間に子どもたちは思考しているものと考えられる。どこまでも続く線をかき、友だちの線に出会いそうになったら、曲がったり、逆に合体させたり…と、思考しながら線をひく姿が見られる。

7 準備

《児童》クレヨン

《教師》様々な太さの筆 共用絵の具 模造紙（床や壁に貼るため） 線のかき方の見本など

*場の設定の例



8 指導と評価計画（2時間扱い）

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◇教師の働きかけ（ 意 気 か 考 ） 授業づくりの視点に関するもの ◆・・・★の児童に対する支援指導・ 手立て・支援	評価規準と 評価方法
1次 15分	○教室の床や壁一面にあるロール紙を見て、活動に期待をもつ。 ☆本時の活動に興味をもつ。 ・「この床や壁に何をやるんだろう。」 ・「大きなものをかきたいな。」	◇教室の床や壁一面にロール紙を貼っておく。ここに思いのまま線をかいていいことを紹介する。 意 床だけでなく、壁にもロール紙を敷き詰め、座るだけでなく、立ちながら、走りながら動きをつけて線を引けるようにする。	【関・意・態】 発言
ようこそ 線のせかいへ！ ～線の世界であそぼう～			
30分	○画材をつかって、さまざまな線を表す活動に取り組む。 ☆線をかく活動に興味をもって取り組む。 ・「どこまでも続く線をかこう。」 ・「いろいろな色の線をかいたよ。」 ・「走って線をかくと線にも勢いがでるね。」 ・「友達のかいた線と合体させたよ。」 ★自分がやってみたくていつか、活動が止まっている。	◇使う画材の確認をする。 ◇どんな線がでかけそうか、子どもたちと考える。安全に気をつければ、走ったり、とんで線をかいたり、体を使ってかいてもいいことを伝える。 気 かき方によって、さまざまな線の表現があることに気づき、さらに色々なかき方を試してみようとしている。 か 友だちと線のかき方を見合い、さまざまな表現を試している。 ◆友だちの線のかき方を見て、自分でもやってみよう促す。 思 場の設定やいろいろな用具を準備することで、思いついたことがすぐに試せるようにする。	【関・意・態】 活動内容 画材や描き方を工夫して様々な表現を試しているか。 友だちとかわっているか。 【発】 子どもが引いた線
20分	○活動のふりかえりをする。 ☆自分がやってみて楽しかったこと、工夫できたことを話している。 ・「とんでかくと、線にも勢いが出たよ。」 ・「同じ色の線を集めてかいた。」	◇自分や友達の活動や出来上がった線を見て、楽しかったことや工夫できたことを聞く。 気 かき方によって、さまざまな線の表現があることに気づき、自分の考えを発表しようとしている。	【鑑】 発言 友達の様々なかき方に気づいているか。

<p>15分</p> <p>10分</p>	<p>・「自分がかいた線の上を歩いてみたよ。」</p> <p>★工夫したことが思いつかない。</p> <p>○友達と協力して片づけをする。</p>	<p>◆教師から見て、工夫された活動があれば紹介する。</p>	<p>かき方によって線の表情が変わることに気付いているか。</p> <p>活動を振り返っているか。</p>
-----------------------	---	---------------------------------	---